

## 肝斑（しみ）の治療にトラネキサム酸

Q：34歳の女性です。この数年顔のしみで悩んでいます。最近、しみに効く新しい薬が出たと聞いたのですが、どんな薬ですか？

A：しみは、日光性黒子（老人性色素斑）、ソバカス（雀卵斑）、炎症後の色素沈着、肝斑などがあります。トランシーノは、国内で初めてしみ（肝斑）の効能効果を取得した、トラネキサム酸をビタミンC主薬製剤の処方に配合した製剤です。

### しみの種類と肝斑

しみは、紫外線が原因でおこる日光性黒子（老人性色素斑）、小さな斑点が広がるソバカス（雀卵斑）、炎症後の色素沈着、などがあります。肝斑もしみの一種です。

第一三共ヘルスケア社による自分のしみの形状を分類したあるアンケートによると、20～59歳の女性の37%が肝斑と考えられるしみである可能性がありました。

「肝斑（かんぱん）」という名前は、しみの色が肝臓の色に似ているから、という説が有力です。肝臓の病気とは、全く関係ありません。

### 肝斑の形状・発症年齢・原因

#### 《形状》

肝斑は、左右対称に現われるというのが大きな特徴です。顔面（通常は前額部、こめかみ、頬）に、暗褐色で境界明瞭の色素の増加した斑が生じます。患部では表皮細胞のメラニン色素の増加が観察されますが、炎症反応は認められません。

#### 《発症年齢》

肝斑が発生しやすいのは30～40歳代の女性で、症状が見られるのはだいたい50歳代後半までです。主として妊娠中や避妊薬を服用している方にみられます。症例の10%は、妊娠していない女性や色の黒い男性に生じます。高齢者ではほとんど見られないと言われています。

女性では、肝斑は出産後または経口避妊薬の使用を中止した後に、完全ではありませんがゆっくりと色調が薄くなります。男性では、肝斑の色調が薄くなることはまれです。

#### 《原因》

肝斑は妊娠時の卵胞ホルモンの増加、MSH（メラニン細胞刺激ホルモン）の増加などの内分泌変調により発症すると考えられていますが、その機序は十分に解明されていません。

全例が日光曝露と関連があります。日光を避ければ、肝斑の増悪を避けられます。また、レーザー治療で悪化するといわれています。

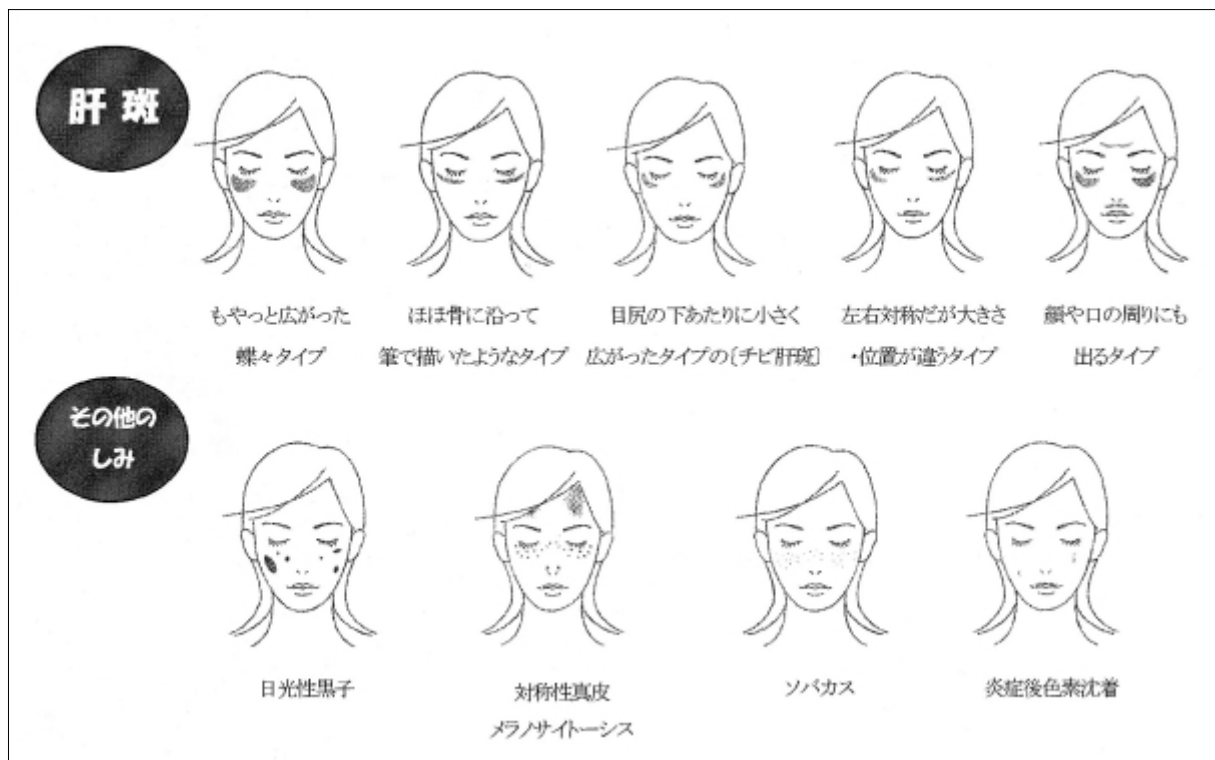


図1 肝斑とその他のしみ<sup>(5)</sup>

#### 偶然発見された肝斑の治療薬

トラネキサム酸は、医療用製剤を適応疾患に用いていた際に、偶然併発していた肝斑（しみの一種）が消退したとの報告がなされたことなどをきっかけに、色素沈着症の一種である肝斑に適用外処方されるようになりました。

トランシーノ<sup>®</sup>

（第一三共ヘルスケアより2007.9.4に発売）

トランシーノは、国内で初めてしみ（肝斑）の効能効果を取得した『新効能医薬品』です。しみ（肝斑）に効くトラネキサム酸をビタミンC主薬製剤の処方に配合した製剤です。

#### 《トラネキサム酸》

トラネキサム酸は、繊維素線溶亢進が関与する異常出血や湿疹およびその類症、蕁麻疹、薬疹などを適応とする抗プラスミン剤です。医療用医薬品及び一般用医薬品として利用されていますが、しみの症状の緩和は医療用トラネキサム酸製剤の効能・効果には含まれない新効能です。

#### 《トラネキサム酸の肝斑への薬理作用》

トラネキサム酸が肝斑に対してどのような薬理作用を発揮するのは不明ですが、抗プラスミン作用により、メラノサイト周辺でのメラノサイト活性因子の産生を抑制する結果、色素沈着部位で亢進したメラノサイト合成系が定常レベルまで抑えられるのではないかと考えられています。

#### 《効果が発現するまで》

トラネキサム酸は、肝斑への効果が発現するまでに、投与開始から2～6週間かかるといわれています。効果が実感できないからといって中止せずに服用を継続することが必要です。また、肝斑は紫外線やホルモンバランスの乱れで悪化・再発することがあるため、規則正しい生活や紫外線対策をすることも重要です。

#### 《効果の程度》

しみの改善の程度には個人差があり、本剤は誰にでも効果があるわけではありません。また、効果があった場合も、しみが完全に消えるわけではない旨の記載がされています。

#### 《のみ方Q&A》

Q：予防的にのんでもいいですか？

A：トランシーノは、あくまでもしみの一種である肝斑の改善を目的とした医薬品です。症状があるときに服用し、症状が改善されれば服用はやめてください。

Q：男性がのんでもいいのですか？

A：男性に対しての、本剤の有効性と安全性に関する十分なデータがありませんので、服用しないでください。

Q：トラネキサム酸が配合されている風邪薬と一緒にのんでもいいですか？

A：トランシーノは市販薬で認められている1日最大量のトラネキサム酸を配合しています。服用するトラネキサム酸の量が多くなってしまうので、併用はせず、風邪薬をのんでいる間はトランシーノの服用を一時中止してください。風邪薬をやめた後は、トランシーノの服用を再開しても問題ありません。トラネキサム酸が配合されていない風邪薬との併用は可能です。

#### 【参考文献】

- (1) トランシーノ添付文書
- (2) メルクマニュアル 第18版 日本語版(2006)
- (3) 日経DI 97号(2005)
- (4) 治療 Vol.89, No.10(2007)
- (5) 第一三共ヘルスケア トランシーノHP  
[http://www.daiichisankyo-hc.co.jp/site\\_transino/](http://www.daiichisankyo-hc.co.jp/site_transino/)
- (6) 薬事・食品衛生審議会一般用医薬品部会において審議された品目  
(平成19年度承認分) トランシーノ審査報告書